

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

八代圏域ツナガルインターンシッププロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

八代市、熊本県八代郡氷川町及び熊本県葦北郡芦北町

### 3 地域再生計画の区域

八代市、熊本県八代郡氷川町及び熊本県葦北郡芦北町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の概要

(産業)

八代市及び八代郡氷川町、葦北郡芦北町を含む八代圏域は熊本県の南部に位置し、日本3急流の一つである球磨川や不知火干拓、八代海を有する自然豊かな地域である。

一方、九州新幹線新八代駅や九州自動車道八代ICを含む6つのI.Cを有する高速交通の拠点都市でもあり、自然環境と一定の利便性・快適性が調和した地域となっている。

この八代圏域では以前より生産量日本一であるトマトやイグサ、全国的にも知名度の高い梨やデコポンなど優れた農産物の生産を土台とし、氷川町、芦北町では農業等を中心とした1次産業、八代市では農業と並び製造業を中心とした2次産業の集積地として発展を遂げてきた。

(人口)

近年の人口動態をみると、3市町の平成23年度末の人口166,753人に対し、平成28年3月末の人口は160,756人と約3.6%減少しており、内訳としては八代市が3%の減少、氷川町が5%の減少、芦北町が9%の減少となっている。また、全国の地方都市と同様に将来推計からも人口減少が続くことが見込まれている状況にある。特に氷川町、芦北町では基幹産業である一次産業による雇用の受け皿が縮小しているなどの要因により、八代市に比べ人口減少率が大きくなっていることがうかがわれる。

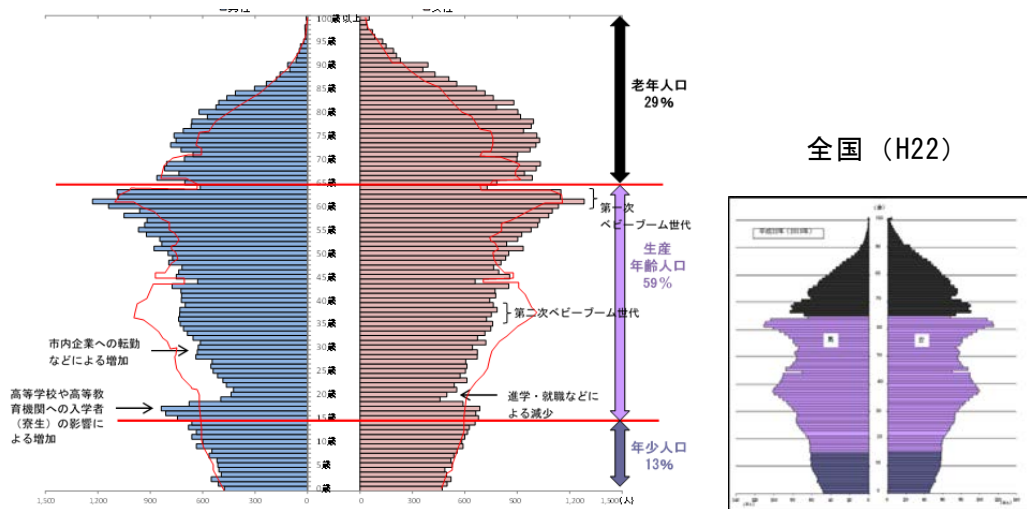
(雇用環境)

【八代市】

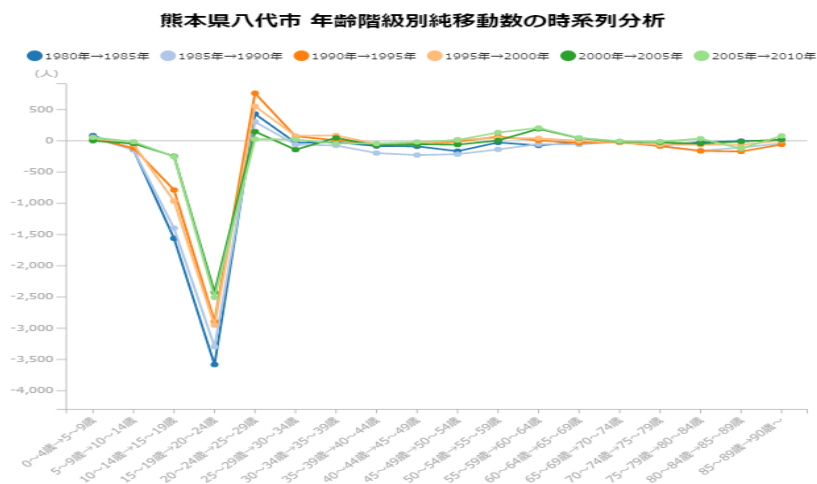
全国と比して15歳前後の人口流入が多い一方、18歳～20歳前後での転出が非常に多いという社会動態の特徴を持っている。

このことから、周辺市町村からの進学先としての受け皿となっている一方、高校卒業後の進学先がない、または市内企業を知る機会が少なく、就職先がないと考える若者が多いことにより、人口が流出していると考えられる。

### ◆八代市の人口ピラミッド（H22）



### ◆八代市における年齢階級別移動数の分析



※若年者流出の状況として八代市データを掲載。氷川町・芦北町にも同様の傾向が見られる。

事実、管内公共職業安定所における平成 28 年度新規高校卒業者の紹介状況データを調べると就職内定者のうち、域内企業に就職する学生の割合は、25.5%しかなく、残りの 74.5%は、域外に流出している現状がある。

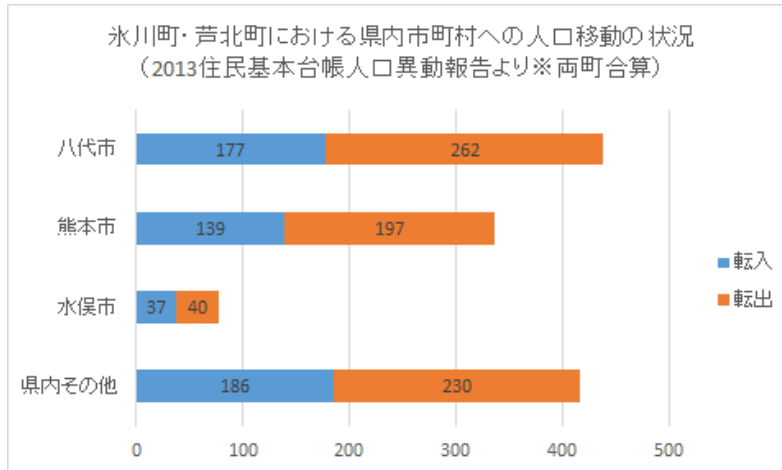
一方で、市内企業の製造品出荷額の県内シェアは、平成 22 年度 5.0%、平成 24 年度 9.4%、平成 26 年度 9.8%と伸びていることから、企業の業績は堅調に推移しており、事業拡大の指標となる有効求人倍率も、平成 24 年度 0.56%、平成 25 年度 0.84、平成 28 年 4 月で 1.16 となり、増加傾向にある。

このような状況から、市内企業からも年々人材確保が厳しくなっているとの声が聞かれる状況となっている。

### 【氷川町・芦北町】

両町のアンケートによれば求職者の 5 割以上は町内に希望する職種がないと回答しており、熊本県内における 20 歳代の人口流出の状況を見れば両町とも八代市への転出が最も多い状況となっている。

#### ◆氷川町・芦北町の人口移動の状況（2013）



これは、氷川町、芦北町の主要産業が 1 次産業であり、以前より産業都市として発展してきた八代市が 2 次産業・3 次産業における雇用の受け皿として機能してきた経緯によるものと思われる。

事実、雇用の受け皿となる企業数は、H26 経済センサスによると八代市 6,181 社、氷川町 438 社、芦北町 659 社であり、圏域で見れば八代市に約 85%の事業所が集中している状況にある。

また、氷川町・芦北町の町民の就業状況をみれば、直近の経済センサスの従業者数では氷川町 1,402 人、芦北町 6,283 人だが、国勢調査の就業者数では氷川町 2,089 人、芦北町 7,024 人であることから町民従業者のうち氷川町 33%・芦北町 11%は、町外企業に就業している現状にあり、人口移動の状況からもその大部分が八代市で就労している状況がうかがわれる。

#### 4-2 地域の抱える課題

八代圏域における人口減少の背景には、20 歳前後の若年者の転出超過が続いていることが大きな要因のひとつとなっている。

前述のとおり、芦北・氷川には雇用の場が少ないということも単独で見た流出の一因だが、共通の課題として氷川・芦北から多くの学生が通学し、雇用の受け皿となっている八代市において、学生の多くが域内企業を知らないことが、圏域から若年者が流出する大きな課題となっていることもその原因と考えられる。

実際に 3 市町が独自に実施した定住意向に関するアンケートでは学生の 5 割以上が域内定住を希望しているものの、「仕事がない」ことが域外へ転出する理由として挙げられており、アンケート結果からも企業と若年者の雇用のミスマッチが生じている状況がみえているところ。

また、もう一方の要因として通勤通学面で密接な関係がある 3 市町がそれぞれ独自の雇用対策や定住対策を実施してきたことで、圏域で人を還流するという一体的な施策としての最適化が図られていなかった点が考えられる。

このため、2 次産業、3 次産業が集積する八代市が雇用のダム機能を果たしながら、氷川町・芦北町が居住の場としての環境整備を進めていくことで、域内における定住化を促進していくことが必要となっている。

以上の取組を推進するために、平成 28 年度に 3 市町において定住自立圏共生ビジョンを策定予定としており、企業と若者の接点の強化を図ると同時に圏域一体となった若年者の流出抑制を図っていくこととしている。

#### 4－3 地域再生の目標

若年者の域内定着率向上のための取組として、インターンシップを切り口とした企業と若者のマッチングを促進し、八代圏域外からの学生も呼び込みながら地域の魅力的な企業の人材確保を進めるとともに、圏域への移住定住及び域内雇用の場の確保を側面支援していくことで、地域の仕事に希望を持ち、圏域で生活していきたいという若者を増やすことを目指す。

もって、人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を維持・向上させていくことを目標とする。

#### 【数値目標】

|                                        | 平成 29 年<br>3 月末 | 平成 30 年<br>3 月末 | 平成 31 年<br>3 月末 | 平成 32 年<br>3 月末 | 平成 33 年<br>3 月末 |
|----------------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 高校・高専・短大<br>卒業生等の八代<br>圏域内企業への<br>就職者数 | 0 人             | 3 人             | 18 人            | 34 人            | 49 人            |
| 18 歳～22 歳の若<br>者の八代圏域へ<br>の定着率         | 0%              | 0%              | 1 %             | 1 %             | 1 %             |
| インターンシッ<br>プ参加学生数                      | 0 人             | 53 人            | 111 人           | 144 人           | 177 人           |

### 5 地域再生を図るために行う事業

#### 5－1 全体の概要

八代圏域内の企業と域内・域外の学生を結びつける取組として実践型インターンシップを実施する拠点を立上げ、当該拠点が核となり域内企業の活性化と若年者の域内集積を進めるとともに、行政による側面支援として移住定住・新たな雇用の場を確保するための取組を実施することで、若年者

の流出抑制と流入促進を図るもの。

## 5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

### 1 事業主体

八代市、熊本県八代郡氷川町及び熊本県葦北郡芦北町

### 2 事業の名称：八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

### 3 事業の内容

本事業は企業の新規事業検証や経営課題解決と意欲的な学生を結びつける実践型インターンシップの拠点を整備し、専門人材を配置することで企業と学生の結びつきを強化し、地方企業の人材不足解消や経営力強化を図る一方で、側面支援として定住自立圏形成協定を結ぶ3市町にて移住定住支援、新たな雇用の場の確保のための支援を実施。

インターンシップを通じて活性化する企業活動・若年者の集積を産業振興や定住促進へつなげるための取組を一体的なプロジェクトとして実施するものである。

具体事業について

#### ◆企業と若者との交流拠点整備

○人材育成および産業コンサルティングに精通したセンター長及びプロジェクトマネージャーを公募により選定。交流拠点を核として以下の事業を段階的に実施していく。

【展開①】インターンシップ（複数企業訪問型、長期型など）を通じた企業と学生との交流を促進。

（市内学生向け）

高校、短大、高専が対象となるため、1～5日間の取材型インターンシップを実施。

（市外学生向け）

市外の大学1～2年生時を対象に3～6ヶ月の長期実践型インターンシップ制度を創設。経営者の経営課題の解決を行うなど、学生と企業双方の成長に繋がる取組を実施。

【展開②】学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート（県内大学・高専等との連携）

【展開③】UIJターナーの地元就職のための相談窓口を設け、域内企業とのマッチングを支援（地元商工会議所・商工会等との連携）。

【展開④】当該拠点を活用した地域内雇用及び創業の促進にかかる支援  
(創業支援計画における認定創業支援事業者等との連携)

◆インターンシップの取組を通じて活性化する企業活動・若者の集積を  
産業振興や定住促進へ繋げるために、側面支援として以下の事業を実施。

1. 広域連携事業

○3市町合同就職フェア

域内企業及び学生を集めた企業情報発信のためのフェアを開催。

○移住定住促進事業

首都圏等で開催される移住定住関連フェアに3市町共同出展。域内の  
魅力や移住支援策等を対外的に発信するとともに、インターンシップ  
交流拠点スタッフが同行し、具体的な企業情報などを紹介することで  
移住者の増加に結びつける。

2. 各市町単独事業

(1) 八代市

○移住者交流ネットワーク事業

移住定住の支援として、交流や相談の場となる「移住者交流ネットワー  
ク」の構築及び活用を図るため、移住者や地域住民の参画によるワーク  
ショップ等を実施する。

○技術開発支援事業

新拠点スタッフ等を介した学生の専攻の強みと企業の技術による開発  
案件に関する支援。

○ライフプランセミナー事業

若年者を対象としたライフプランセミナーの開催及び八代での暮らし  
の見える化のための生活費用イメージ冊子作成。

○UIJ ターンマッチング支援事業

新拠点スタッフ等を介した UIJ ターン者の域内企業へのトライアル  
雇用の支援。

○UIJ ターンプロフェッショナル人材マッチング支援事業

新拠点スタッフ等を介した UIJ ターン者のうち、専門的な能力や経験  
を有する人材の域内企業への雇用の支援。

○創業支援事業

新拠点スタッフ等を介した学生の起業及び UIJ ターン者の起業を支援。

(2) 氷川町

○移住定住促進事業

大都市圏で開催される移住定住フェア等に参加し、町の自然環境や産  
業等に関する情報発信を強化する。

○お試し住宅整備事業

寄付等により行政が所有する空き家を改修し、お試し移住者へ貸し出

しを実施する。

### (3) 芦北町

#### ○移住定住促進支援事業

移住サポーター制度等の立上げにより、相談から移住後のフォローまでを一体的にフォローアップする仕組みを構築する。

#### ○お試し住宅整備事業

遊休公共施設や寄付等により行政所有とする空き家を改修し、お試し移住希望者への貸し出しを実施する。

#### ○チャレンジショップ整備事業

住民から無償提供された空き家を町が主体となり改修し、移住創業者のためのチャレンジショップとして貸与する。

## 4 事業が先導的であると認められる理由

### 【自立性】

実践型インターンシップをコーディネートするための新組織を立上げ、企業と学生とのコーディネート料徴収等の仕組みを導入することで、5年後には本交付金に頼らない経営を目指す。

### 【官民協働】

産学官金による新組織を立上げ、学生、企業、連携機関が参画した枠組みを構築し、専任スタッフがコーディネートすることにより、それぞれが有機的に繋がる仕組みを生み出し、学生の成長及び企業の発展の取組を加速化させる。

また、行政の側面支援により域内雇用の場の確保、移住定住支援策を実施していくことで、定住自立圏形成協定を結ぶ八代圏域一体として若年者の流出抑制を図っていく。

上記の取組と併せ、民間事業者ではインターンシップの取組事例を教育機関で発表することにより、学生のキャリア教育支援を実施するとともに、企業説明会を主体的に実施するなど、自社の魅力を発信する取組を行政と連携しながら進めていく。

### 【政策間連携】

実践型インターンシップの取組を核として、域内企業の成長支援と学生のキャリア教育を支援するとともに、定住自立圏域一体で移住定住支援策を実施することで、地方都市における将来的なライフプランの構築を支援。複合的な効果として若年者の流出抑制と流入促進を図っていく。

### 【地域間連携】

熊本県及び定住自立圏形成協定を締結する 3 市町との連携により、学生

のインターンシップ受入体制の整備に努めるとともに、連携市町の有する農林水産物、ものづくり企業の技術力、高等教育機関の研究開発力等それぞれの強みを連携させながら、域内産業活性化や移住定住支援を実施していく。

なお、連携にあたっては雇用場として中心的な役割を担う八代市がインターンシップの拠点として域内企業と学生とのコネクション強化に努め、氷川町、芦北町が移住定住への支援を強化していく。

#### 【その他の先導性】

交流拠点のセンター長及びプロジェクトマネージャーを始め、専門知識を有する専任職員を配置して事業を遂行する。

なお、人材の選定及び事業立ち上げ期の運営に際しては、先進団体である岐阜県のNPO法人G-netの協力を得ながら事業遂行能力を高め、学生と企業のニーズをマッチングさせるとともに人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を維持・向上させていく。

### 5 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

|                                    | 平成 29<br>年 3 月<br>末 | 平成 30<br>年 3 月<br>末 | 平成 31<br>年 3 月<br>末 | 平成 32<br>年 3 月<br>末 | 平成 33<br>年 3 月末 |
|------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 目標①                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| 高校・高専・短大卒業<br>者等の八代圏域内企<br>業への就職者数 | 0 人                 | 3 人                 | 18 人                | 34 人                | 49 人            |
| 目標②                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| 18 歳～22 歳の若者の<br>八代圏域への定着率         | 0%                  | 0%                  | 1 %                 | 1 %                 | 1 %             |
| 目標③                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| インターンシップ参<br>加学生数                  | 0 人                 | 53 人                | 111 人               | 144 人               | 177 人           |

### 6 評価の方法、時期及び体制

毎年度、3 月末時点の KPI を取りまとめて有識者を含む評価委員会・議会の関与を得ながら検証結果報告としてまとめる。結果については次年度の事業に反映させるとともに、ホームページで公開する。

### 7 交付対象事業に要する経費

#### ① 法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

・総事業費 149,629 千円

## 8 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成 33 年 3 月 31 日（5 ヶ年度）

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

域内雇用の場の確保のための取組として、3 市町にて次の事業を実施。

##### （1）中小企業魅力発信事業

事業概要：中小企業の人材採用活動に関する実践的なセミナーを開催。

実施主体：八代市

事業期間：平成 28 年度

##### （2）商店街再生事業

事業概要：地域の雇用の場の確保のために商店街の空き店舗を活用した新規創業者に対し、店舗改装費用の一部を助成するもの。

実施主体：八代市

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

##### （3）創業支援事業・事業所等整備促進事業

事業概要：町内で新規に創業する事業者の店舗改装費用等を助成。

実施主体：氷川町

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

##### （4）創業等店舗整備支援事業

事業概要：町内で新規に創業する事業者の店舗整備又は既存事業者の店舗改修費用等を助成。

実施主体：芦北町

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から、平成 33 年 3 月 31 日（5 ヶ年度）

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

（八代市）

「やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議」において検証を行う。

(氷川町)

「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」において検証を行う。

(芦北町)

「芦北町総合戦略評価委員会」において検証を行う。

#### 目標①

ハローワーク及び各教育機関等が集計する進路の状況により把握する。

#### 目標②

住民基本台帳による人口動態の集計により把握する。

#### 目標③

新設するインターンシップ拠点への調査により把握する。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

|                                    | 平成 29<br>年 3 月<br>末 | 平成 30<br>年 3 月<br>末 | 平成 31<br>年 3 月<br>末 | 平成 32<br>年 3 月<br>末 | 平成 33<br>年 3 月末 |
|------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 目標①                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| 高校・高専・短大卒業<br>者等の八代圏域内企<br>業への就職者数 | 0 人                 | 3 人                 | 18 人                | 34 人                | 49 人            |
| 目標②                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| 18 歳～22 歳の若者の<br>八代圏域への定着率         | 0%                  | 0%                  | 1 %                 | 1 %                 | 1 %             |
| 目標③                                |                     |                     |                     |                     |                 |
| インターンシップ参<br>加学生数                  | 0 人                 | 53 人                | 111 人               | 144 人               | 177 人           |

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の方法

八代市、氷川町、芦北町それぞれのホームページにて公表する。